

大田市 縁パワーしまね

自然エネルギーの資源調査と事業化計画づくりに向けた地域との対話



活動目的

地域や住民が主体となる自然エネルギーを通じた地域作りのため、小水力発電事業の基礎や導入のプログラムを学び行政と協働で適地の選定や流量調査を進め事業化を目指す。

活動内容

- ① 柿木自然エネルギー学校の開催
吉賀町をモデル地域として、自然エネルギー学校（小水力・基礎編）を実施。地域住民が自然エネルギーを通じた地域づくりを学び考え、主体的に関わり事業化へ進むためのノウハウやコツを学んだ。
- ② 新規候補地で勉強会
自然エネルギー学校の開催や、地域での事業化計画づくりをする地域を新たに募集したところ、左鏡地区で次年度以降、自然エネルギー学校開催の要望があり、その準備として地域住民向け勉強会を開催した。



成果

小水力発電に関心のある地域や人を探すことから始まったこの活動、何回かの勉強会を経て、小水力発電開発のプロセスを基礎から学ぶ「自然エネルギー学校」の実施に発展した。座学で学んだことを活かし実際に自分たちで小さな小水力設備をつくってみるといった段階に来ている。学校には想定より多くの参加者があり、自然エネルギーによる地域づくりに意欲のある方々とつながることができた。今後も一緒に新しい活動を作っていく予定である。

雲南市 公益財団法人 鉄の歴史村地域振興事業団

自然と共存する鉄の歴史村をめざして
～菅谷たたら山内に生息するオオサンショウウオの保護活動～



活動目的

オオサンショウウオの生息調査や観察会を雲南市や他団体と連携し実施する。
団体独自のナチュラリストを認定し、継続的な保護や調査を実施し、増加する観光客や子どもたちに対し保護の重要性について意識の高揚を図る。

活動内容

2月に実施した観察会の参加者は21名。雨谷川の産卵巣穴付近で昨年確認した又シと幼生41匹を発見し計測を行った。周辺には餌となるタカハヤなどが生息しており環境の整った繁殖場所であることが確認できた。この観察会はオオサンショウウオの適した生息環境や保護について実践で学べるため、観察会修了後、参加者を「鉄の歴史村ナチュラリスト」として認定した。

成果

平成29年より3年間、日本オオサンショウウオの会、地域住民と生息・産卵状況の調査と観察会を実施した。この事業を通じて、国の重要有形民俗文化財である菅谷たたら山内がオオサンショウウオの生息環境に最適で、上流域に理想的な産卵環境が存在することも確認できた。また、この事業が地域住民のみならず、観光客や近隣自治体の住民へと活動が広がり、保護活動の継続への見通しが立った。



出雲市 発見地反辺のイズモコバイモを守る会

発見地周辺に自生するイズモコバイモ群落の保全活動及び普及啓発活動



活動目的

出雲市反辺地区に自生するイズモコバイモは、盗採や管理不足等により、絶滅の恐れがあることから、本種の保全及び希少性や貴重性を啓発するため、パンフレットを活用した普及啓発や自然観察会の実施、草刈り、ロープ柵の設置、観察歩道の整備、制札の設置などを行う。

活動内容

自生地の整備

元年11月24日に22名の会員で自生地の整備を行った。解説標識やロープ柵の設置、歩道整備、草刈り、被圧している樹木の伐等を行った。

一般公開

令和2年3月20日～22日に初めて自生地を一般公開した。3日間で1000人近い見学者があり、イズモコバイモの発見の経緯や保全の活動が大変難しいことを訴えた。



成果

パンフレットを作成し普及啓発活動を行ったことで、多くの県民に発見地反辺のイズモコバイモの価値や保全の重要性が理解された。趣旨に多くの県民が賛同し、会員も80名以上に増加した。また、観察会や自生地の整備にボランティアとして多くの参加があり、地元住民からも協力が得られるようになった。

邑智郡 都賀本郷連合自治会

里山整備・資源利活用による意識啓発事業



活動目的

荒れ放題の放置竹林は景観を損ねイノシシの住処になることにより農地被害が拡大することから里山整備を行い環境保全意識を育てるため、竹林を伐採するとともにそれを利用して竹灯籠・竹オブジェを制作する学習会を開催し、その内容をまとめ文化祭で掲示する。

活動内容

9月中旬都賀西地域の竹林で、地域、大和小学校、保護者、教員と一緒に竹の伐採・搬出・切断の作業を行った。下旬には、資源の有効活用や環境の大切さを学ぶ礎として、こどもたちが自分でデザインした竹のオブジェを制作した。

10月には竹灯籠をチップ化し防草剤及び肥料として活用した。2月には大和小学校の5年生を対象とした「地球温暖化と里山整備」授業を行った。

成果

地球温暖化防止に関連づけた学習を行ったことで、自分たちの活動が防止に役立つことがわかり、里山整備など地域保全の意識が向上した。竹林を整備したことで景観が向上し、イノシシなどの住処防止の対策になり、また積雪での倒竹防止にもつながった。また、竹チップを防草剤、肥料として活用することで、整備に対する意識が向上した。



地域の川をもっと知ろう、地域の川でもっと遊ぼう！！



活動内容

高津川で行う体験イベントの準備には地域住民の協力をいただき、除草作業や川の土砂を取り除いて流れをよくし、見守りのやぐらを20年ぶりに復活させることができた。そこで実施した生き物調査には40名の参加があり、子どもたちは網ですくってエビやヤゴ、ドジョウなどを見つけたり、地元の漁師さんの仕掛けに入ったツガニ、鮎、ウナギなどを間近で感じたりでき大興奮の様子だった。また、それまで馴染みのなかった日原発電所を見学した時は、水力で電力を起す仕組みに興味深く学んでいた。そしてこの事業での体験を模造紙いっぱい描き、滝元枕瀬公民館祭に展示して高津川の魅力と川に親しむことを伝えた。

活動目的

川遊びをする子どもが減り、高津川という地域の宝を実感しない子どもが増え、環境を守ることに関心が無くなることから、地域の川を学び親しめる環境を復活させるため、小中学生を対象とした川の生き物調査学習や、水力発電所の見学などをとおして川の恩恵などを学ぶ。



成果

地域住民への理解と協力を得たことで、地域として子どもたちと自然を近づけることへの意識や関心が高まり、今後の活動に期待をしてもらえるようになった。除草作業や土砂の除去など整備したことでイベントの時以外でも訪れた人が過ごしやすい環境になり、複数の来訪者から「子どもが遊びやすくていい」という声をいただいた。漁師さんやイベントに関わった方々も、子どもたちが喜ぶ姿を見て誇りを感じることができ、この事業の意義を理解してもらうことができた。